



「言葉によって生きる」

西部中会 鈴蘭台教会牧師

望月 信

今年の4月から、近くの区民センターで開講されている「絵本の読み聞かせについての講座」に通っています。わたしは子どもの頃から絵本が好きで、自分の子どもにも好きになってほしいと思い、絵本を読み聞かせてきました。見よう見まねの我流でやってきて、基本的なことを身に着けることが必要であると感じていました。絵本とは何か、絵本は何を伝えるものであるのか、絵本の種類といったソフトの面から、絵本の持ち方、声の出し方のような技術面に至るまで、楽しい学びの時を与えられています。いずれは奉仕している教会で絵本の読み聞かせの会ができるとういと思っています。

絵本の読み聞かせをする目的の一つは、言葉の習得ということです。言葉は成長にともなって自然に会得されるものだと思われるかもしれませんが、もちろん、その一面も確かにあるでしょう。けれども、「言葉によって生きる」ことのためには、言葉によって感情を揺さぶられ、励まされ、力づけられる体験が欠かせません。言葉は単にコミュニケーションのツールというだけでない、人を生かす力となるものです。また、言葉に律せられて生きることも大切です。絵本は、そのような意味での言葉の習得を目指すものだと思います。そして、言葉の習得によって私たちは想像力を広げることができるのです。自分自身では経験することができないことを経験し、視野を広げ、翼を獲得して、大空へ飛び立つことができるようにされます。人の気持ちを察して共に

喜び、共に泣くこともできるようにされます。

聖書の宗教は言葉の宗教であり、聖書を感じる信仰は真に「言葉によって生きる」信仰にほかなりません。そのため、神の民は、旧約時代から、言葉の習得のために力を注いで参りました。たとえば、宗教改革者のカルヴァンはジュネーブに神学教育機関を設立しました（ジュネーブ・アカデミー）が、それは牧師になる召命を与えられた人だけでなく、ジュネーブの青年全体を対象にするものでした。また、カルヴァンはさらに広くジュネーブの小学校の整備も行いました。語学と人文学を子どもの発達段階に応じて教えることに取り組んだのです。

現代は言葉より映像に力があると考えられている時代であり、言葉の習得がおろそかにされることが起こっているように思います。以前に比べて子どもの教育水準に家庭環境による違いが大きくなっているのではないかと感じています。絵本に限らず本が身近にない子どもが増えているようにも思います。その点で、神学校で非常勤講師として奉仕させていただくかわら、各個教会でもやるべきことがあるのではないかと考えています。教会として、今あらためて一般教育の領域、とりわけ語学と人文学の領域に目を向けることが必要ではないでしょうか。「言葉によって生きる」信仰者を育てるために、わたし自身、神学校で、また教会で、自分なりに取り組んでいきたいと願っているところです。

卒業生挨拶

本科生

大宮季三

(おおみやすえぞう)

四国中会 芸陽教会



3年3ヶ月の神学校生活を無事に終えることができました。振り返れば、必要なもの一切が神様に与えられる歩みでありました。経済的な必要が満たされ、共に学ぶ仲間が与えられ、学びに励む忍耐が与えられました。その背後には、私の想像できないほどの皆様の祈りと捧げものが神様に捧げられていたことを覚えて感謝を申し上げます。

「キリスト・イエスの立派な兵士として、わたしと共に苦しみを忍びなさい」(2テモテ2:3)。私の母が入学の際にこの御言葉を送ってくれました。そして、この御言葉は神学校入学以来、私のうちに強く刻まれていました。「まだまだ学びが足りない」、という意味においては神学校でまだしばらく学びを続けたい、という思いもありますが、神様が「行きなさい」とおっしゃられるその時がやってきました。キリスト

3年3ヶ月の学びの背後に、皆様の祈りと献げものがあったことを覚えて、感謝申し上げます。また、何よりも主なる神様の憐れみがなければ、神戸改革派神学校を卒業することはできませんでした。私を導いて下さった主のみ名を褒めたたえます。

振り返ると、神学校での学びは決して平坦なものではありませんでした。主の召しを覚えて神学校へ入学しましたが、伝道者として歩む「重さ」を、学びを深める中で自覚していき、私がこの働きを全う

の兵士として、神様が「語りなさい」とおっしゃる言葉を語り、「行いなさい」とおっしゃる働きを為したいと願っております。

私が神様に「行きなさい」と示された地は、四国中会の芸陽教会（高知県）です。神様は私をこのとき遣わされるまで、様々な導きを与えてくださいました。芸陽教会という赴任地が決して偶然や人の思いではなく、神様によって示された地であると心からの確信が与えられています。

卒業というのは、「キリスト・イエスの兵士」として働きの場に送り出される準備ができた、ということの意味します。卒業という喜びを胸にしまい、働きの場で「苦しみを忍ぶ」という覚悟を持って、新たな気持ちで働きを始めていきたいと願っております。

神学校関係者の皆様、派遣教会である宝塚教会、灘教会、西神教会の皆様、夏期伝道派遣教会である南四国伝道会の各教会、新潟伝道所、横浜教会の皆様、母教会である大阪教会の皆様、信仰を育ててくださった西部中会の皆様、神学校、神学生を覚えて祈り続け、支え続けてくださった皆様、心から主の祝福がありますようにとお祈り申し上げます。

本科生

高内信嗣

(こうちしんじ)

四国中会 山田教会



することができるのかという不安の中で学びを続けていました。挫折しそうになる時もありました。しかし、主なる神は私の不安を砕いて下さり、確かに私は主から召されたのだという本当の確信が与えられました。3年3ヶ月の学びは自分の召命を見つめ直す、更に確信する期間だったのだと思います。

これから新しい生活が始まろうとしています。私は高知県にある山田教会へ遣わされ、定住伝道者としての働きを始めます。山田の地で教会に集う兄弟姉妹の方々と共に主を賛美し、礼拝を献げ、喜んで歩んでいきたいと願っています。

私は、赴任するにあたって、Ⅱコリント5章15節の御言葉を大切にしています。「その一人の方はすべ

ての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです」。私の存在を、私たちのために十字架にかけられ、復活してくださった主イエス・キリストの道具として、キリストのために全てを献げていきたいと願っています。

世の中はさらに悪い方向へ向かっています。しかし、この時代に主は私を召してくださいました。多くの傷ついている魂に寄り添い、神様はキリストを通して、私たちを愛しておられるという福音を大胆に語っていきたくと願っています。これからも皆様の祈りに覚えていただければ幸いです。

本科生

小橋口貴人

(こはしぐちたかと)

中部中会 那加教会



3年3カ月の神学校生活を支えてくださった皆様に心より感謝いたします。多くの兄弟姉妹方の祈りと捧げものに支えられて、神学校での学びの生活を全うすることができました。特に私と妻を神学校へと送り出してください、神学校生活のはじめから支えてくださった、日本福音キリスト教会連合（JECA）のつづじヶ丘キリスト教会の皆様への感謝を、まず言い表したいと思います。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

私たちは2人とも改革派教会の出身ではない、関西も初めてだったので、どこへ行っても新しい出会いに満ちていました。教えてくださった先生方、神学校の職員の方々、クラスメイトや神学生、通年の派遣でお世話になった西神教会、園田教会、門戸聖書教会（JECA）、夏期伝道で行った那加

教会、花見川伝道所など、すべての所で主が備えてくださった素晴らしい出会いと交わりが、これからもさらに祝され用いられますように祈っています。

7月からは、中部中会的那加教会に遣わされることとなりました。私たちにとって、改革派教会に加入するというのは大きなチャレンジで、決断するには長い祈りの期間が必要でした。どの教派に行こうと、主の御国を建て上げる働きに変わりはないと思いますが、改革派神学校で学んだことを最大限活かせる場所に遣わされたいという願いから、これが主の御心であると信じました。お世話になったJ ECAを離れることになりましたが、私たちの歩みが、改革派教会だけでなく、今までお世話になったすべての教会の益のために用いられますように、切に祈り願っています。

学ぶべきことはまだまだ多く、欠けも多い者ですが、那加教会の皆様と一緒に伝道と教会形成の業に仕えていきたいです。神学校での学びや奉仕の訓練はもちろん、これまでの教会生活で与えられたすべてのことを糧にして頑張りたいと思いますので、どうか続けて私たちのためにもお祈りください。

本科生

佐野直史

(さのなおし)

特別研究課程



主の御名を心より賛美いたします。ただ、主の御恵みによって、2017年6月27日(火)に神戸改革派神学校を卒業することができました。全国の諸教会・伝道所の皆様のお支えとお祈りによって、私の歩みが守られましたことを心より感謝申し上げます。素晴らしい神学校の教職員の方々と、共に学んだ神学生の仲間たちに囲まれ、恵まれた環境で主に仕えるための学びの時を過ごすことができました。誠にありがとうございました。

私の神学校での3年間の学びを一言で表現するならば、「神様を知り、人間を知り、自分を知る学び」でした。私は3年前、この神学校に入った頃、神様のことも、人間のことも、自分のことも知らない人間でした。私はこの神学校に入って、3年間か

けて、それらを少しずつであります、学ぶことを許されました。私は3年間それらについて学びましたが、今もわからないことがたくさんありますし、ほとんど分かっていない自分に気付きました。しかしそれでも、神学校において、神様とは何か、人間とは何か、自分とは何か、ということ「学び続ける姿勢」、「考え続ける姿勢」というものを教えられました。また、それらを「知る喜び」を教えられました。私はこれから教会の現場に出てからも、神学校で教わった「学び続ける姿勢」と「知る喜び」をもって、伝道者としての道を歩んで参りたいと思います。

私は卒業後、神学校の「特別研究課程」に進学し、もう少し神学校で学びを続けることになりました。他の神学生とは異なる道に進むことになりましたが、神様から与えられた自分の道を、自分のペースで歩んで参りたいと思います。そして、生涯を通して、少しでも主の御栄光のために仕えて参りたいと思います。引き続きお祈りくだされば幸いです。

神戸改革派神学校を祈り支えてくださっているすべての方々に、主の恵みと平和が豊かにありますように祈り願います。主にありて。

3年3ヶ月間、本科生として勉強させていただきました韓相眞と申します。私は、すでに韓国で神学校を卒業しまして、今回、二回目の神学校での学びとなりました。韓国では総神神学大学院を卒業して、10年間教会で働きましたが、そういう中で牧師としての自分の足りなさを痛感し、いつか機会があれば、もっと神学の勉強をしたいなと思っておりました。

そして、約3年前、願っていた機会が与えられ、日本に入国すると同時に、神戸改革派神学校に入学することになりました。特別研究生の過程もありましたが、本科生として入学しました。3年3ヶ月間は、私にとっては、とても有益な時間であり、よき学びの時でした。同級生も多く与えられて、本当に楽しい神学校での生活でした。しかし、最初願っていた良い牧会者としての成長はそれほど進みま

本科生

韓 相眞

(ハンサンジン)

西部中会 山本伝道所



せんでした。自分なりに頑張って勉強に励んでいきましたが、自分の足りなさは、完全に満たされず、むしろ学べば学ぶほど、自分の足りなさがさらに見つけられるばかりでした。それで、いろいろ悩みもありましたが、そういう中で、悟るようになったことがあります。それは、良い牧会者になるためには、もちろん神学校での学びは基礎になりますが、そ

れで学びが終わったわけではないということ、そして、一生涯を通して、学んでいくべきだということを教えられました。

私は、まだ未熟のまま、再び牧会現場に遣わされるようになりました。自分の足りなさが覚えれる時にがっかりすることもあると思いますが、神様だけにより頼んで、最善を尽くしてやっていきたいと

思います。

3年3ヶ月間、神学校で学びと研鑽に励んできたように、卒業後の牧会現場でも、一生、主の御心にかなう良い牧会者になるために、学びつつ、主の御前で自分を省み、へりくだって主と共に歩む教会での働きになることを願っております。

本科生

三川共基

(みかわともき)

東関東中会 松戸小金原教会



この度、主の祝福の内に神学校を卒業しました。3年3ヶ月の学びはあっという間でした。あっという間ではありましたが、神学校にいる間多くの壁が立ちばかり、一人悩む時もありました。しかし、どのような大きな困難にぶつかる時も、必ず私を支えてくれる人が現れました。神学校の間、私は多くの方々に祈っていただき、支えられ、励まされました。そして何よりも主が共に居てくださり、確かな歩みを一步一步進めることができました。心から感謝しております。

私は神学校において多くの励ましを受けました。今度は私の番です。私は、主なる神が用いてくだ

さる器として、多くの方を励ます働きをしていきたいと願っています。私は入学の時の校報に「人に寄り添う牧師になりたい」ということを書きました。神学校にいる間にこの準備をどれだけできたかは、実際に現場に出なければ分かりません。常にこの初心を思い出しながら、牧会的配慮を持った牧師として歩みを進めたいと思います。

とりわけ、7月からは東関東中会の松戸小金原教会へ赴任します。主から示されたこの教会において、私は主の励ましを心待ちにしている人々のために仕える者になりたいと思います。そして、教会に所属する方々、一人ひとりと足並みをそろえて歩みを共にしていきたいと思います。また、世の中には苦しみの中にある人、悲しみに暮れる人、社会に見捨てられた人等、弱さを覚える方が多くいます。私はそのような人々の傍らに寄り添う者でありたいと願っています。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとへ来なさい、休ませてあげよう」と言われた主イエスのことを見つめつつ、この主にならった牧会者になりたいと思います。

65期生それぞれの学びを導いてくださった神様と、今まで支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。卒業後、私は主人の母国、英国に移り住むことになり、今後はそこを拠点に教会の働きに携わることになりました。つくづく、「私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて」(エペソ3:20) 働かれる神様の御主権を覚えさせられます。

別科生

尹(ユン)エステル



神学校生活は、様々な人々の信仰理解に触れる生活でした。神学者たちの信仰理解はもちろん、様々なバックグラウンドを持つ神学生、先生方の信仰理解に触れた神学校生活は、私たちがどのように神様を見ているのか、また世界や人を見ているのかについて、教えられる経験になりました。そのような中で、絶えず、神様の御前に謙遜でありつづけ、神様が働かれる世界の広さを見ること、いつも、キリストを見上げなければならないことを教えられました。神学校生活は、いつも感謝なことばかりでなく、本当に忍耐が試される3年3か月でした。しかし、卒業を迎え、入学時にはなかった新しいビジョンと、心から愛し、尊敬する伴侶と家族が同労者として与えられたこと、諸教会での豊かな交わりを通して与えられた兄弟姉妹の存在を思う

とき、神様の恵みと祝福は私にとって十分で、すべてのことを益としていただいた、と心から告白できる今があります。

これからは、卒業式で吉田校長が語ってくださったように、私たちは、「キリストの苦しみの欠けたところを満たす」ため（コロサイ1：24）それぞれの地へと遣わされます。私は国外で、他の方々は日本で、それぞれが、キリストの苦しみの欠けたところを満たすための奉仕をすることになることでしょう。私は皆様と距離的には一番遠く離れて暮らすこととなりますが、これからも覚えて祈っていただきたいと願います。皆様の主にある御愛に心から感謝しつつ、与えられたところで主の御名を褒めたたえてまいります。

特別研究生

李在永
(イジェヨン)

単立 J-HOUSE



主の御名をほめたたえます。

私は2年前大韓イエス教長老会合同派から宣教師として日本に派遣されました李在永と申します。この頃歩き始めるようになった私の1歳になったばかりの娘を見たら、この2年3か月間の神学校での生活を振り返ることになります。2年3か月前、初めて宣教師として、牧会者として日本に来たとはいえ、私と家族はむしろ日本について、日本の教会について、日本の生活について何も知りませんでした。何をすることも間違いや失敗、試行錯誤が伴いました。ただ神学の学びだけでのことではありません。日本での生活、寮での共同生活、日本の教会の信者たちとのかかわり方だけがはじめてではありませんでした。韓国の親や親族、友達の助けなしの私たち夫婦だけの生活、今年4月に3歳に

なった息子や去年6月に生まれた娘の育児や養育などの日常すらも私たちは初心者であり赤ちゃんの歩きみたいなものでした。こけたり、躓いたり、倒れたりしました。しかしそのたびに神学校でいろいろな方から助けられ、教えられ、私たちの弱さまでも受け入れていただきました。学校の先生方、教職員の方々、神学生たちや神学校で出会った改革派の皆さんは私たち家族を支えてくださいました。だからこそ私と家族はこけることを恐れず、色々チャレンジし学ぶことができました。そのおかげで私たちはやっと歩けるようになりました。

私が神戸改革派神学校に入学したのは神の福音と御言葉を伝えるのにふさわしい日本語、神学的な日本語使いを学ぶために、日本の教会を知るために、また韓国で5年間牧会しながら感じた私自身の足りなさを補うためでありました。しかし神戸改革派神学校での期間を通して学んだのはただこれらだけではありません。神様は神学校に私と私の家族を導いてくださることで、宣教師として、牧会者として、家族として、人間として安全に成長できるようにしてくださいました。主の顧みと恵みに感謝します。2年間お世話になった先生方や神学生、出会った皆さんに感謝を申し上げます。

入学生挨拶



4年制コース

石川亮

(いしかわまこと)

東部中会 横浜教会

この4月に本科課程生として入学しました石川亮です。東部中会の横浜教会の出身です。5年前まで、カフェを経営していましたが、神様から召命感を与えられ、献身の道を志しました。

不思議な話ではありますが、カフェを経営してい

主の御名を賛美いたします。ご存じのように神戸改革派神学校の制度が変わり、従来の養成課程に代わる4年制コースに加えて2年制コースが新設されました。私は、その短期コースの1期生ということになります。主の導きに自分自身が驚いています。64歳での献身です。入学以来、これまでの自分の生業を継続した状態で、神学校の学びに加え寮生活をひとまず1学期間経験しました。神学校生活は全体として予想を超えてハードなものでありましたが、主の支えによってなんとか試練をクリアした次第です。これからも主の支えと導きを切に祈り求めます。

そして又、送り出して下さった母教会である西神教会の祈りに感謝しています。私は、もちろん主のみ

る最中、十字架にかかるイエス・キリストの幻をはっきり示されたことにより、私には救いという揺らぐことない本当の希望を与えられている確信を得ました。そして、私に希望を与えてくれた福音を伝えたいと思うようになり、カフェを経営しながらそのことに従事したいと考えていました。しかし、様々な出来事を通して「全てを捨て牧師の道を歩め！」という主の力強い召しを確信し、その道を歩む決意をしました。

私は、欠けが多く、何の取り柄もない人間ですが、必ず主が道を備えてくださり、道を開いてくださると信じています。私は、ただ、主が指示す道を従順に謙虚に歩みたいと考えています。



2年制コース

上田進

(うえだすすむ)

西部中会 西神教会

旨のままですが、経済的に恵まれない教会・伝道所に遣わされ、自分自身が「小さき者」として神様のみ言葉に聞き従い、主イエス・キリストによって生かされ続けたいと願う自分を提示しながら主の現臨を受け継ぐ、寄り添う伝道者を志しています。



2年制コース

長谷川はるひ

(はせがわはるひ)

中部中会 関キリスト教会

「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。」(箴言 16: 9)

信徒家庭に生まれ育ち、連合青年会で知り合った主人との間に3人の子どもが与えられ、末子が成人式を迎えたこの年、神学校で学びを始めることが許されました。主の御導きと御憐れみに心より感謝申し上げます。

日曜学校での奉仕を通して、特別支援教育や静岡盲人伝道センターでの働きを通して、体験してきたこと祈ってきたことが、神学校での学びに活かされ、きよめて主のご用に用いられますよう祈ります。神学校では、主人もいっしょにいたらいいの、と思うことがしばしばあり、そのつど写真をメールで送って感動を共有しています。

足りない者ですが、与えられた素晴らしい機会に、少しでも多くのことを学び、祈り、砕かれ、主の愛を伝えるための備えができますように。そして、主の備えてくださる道を一步一步進んできたいと願います。



特別研究生

郭宝慶

(カクボーキョン)

ヨハン西宮キリスト教会

韓国の家には国から頂いた勲章と公園には日本植民地の時、国の独立のために働いた祖父の石碑が建てられています。個人的に日本に対して大変な思いを持っていた私が一人の日本人でも救われることを望みながら日本宣教師として献身し、そ

の上に開拓9年目を迎えるのは主の恵みであり、奇跡だと言えます。主の恵みで歩んできた9年でしたが、自分の限界を感じてより主を高く、広く、深く知りたくて神戸改革神学校入学するようになりました。

牧会の現場から離れ、自分と働きを客観的に見られるようになりました。改善点を祈禱課題として与えてくださった主なる神様に感謝し、学業も楽しく励んでいるところです。学業しながら悟ったのは、どんな時でもイエス・キリストを信じて御言葉を握りしめて誠実に任せられたことをコツコツしたら、主が働いてくださるという確信です。謙遜に学び、主が愛し、喜ばれる僕、教会になるように祈りお願いします。

私は日本に来て4年が過ぎ、また4月に特別研究生として神戸改革派神学校に入学し3ヶ月が過ぎようとしています。過ぎた時間を考えればすべてが神様の御導きだと確信します。私が時々思う事は、なぜ私が韓国で牧師になり、また宣教師としてこの日本の地に遣わされることになったのか、なぜこの神戸改革神学校に入学することになったのかと思います。いくら考えても私の計画、私の努力ではありません。この場所、ここに遣われている今、絶対的な神様の御導きがあったと確信します。

その導きは、韓国の神学校で学ぶ時、宣教のため訓練を受けたこと、いくつかの国に短期宣教の経験があったこと、そして宣教に行く国を捜し、祈



特別研究生

千禎鎬

(チョンジョンホ)

大阪希望教会

りながら準備をしていたこと、さらに日本人の姉妹と出会い、結婚することになったこと、また、入学前に大阪で教会を開拓し牧会している韓国の牧師に協力し、働いてきたこと、などです。これからも導いてくださる神様に期待します。

「神学校リトリートの報告」

2年生 木村英樹

今年も、関西学院大学千刈キャンプ場を会場にリトリートを行いました。今回は、5月18日(木)と19日(金)のクラスを全て休講にして、ゆとりあるプログラムを組みました。テーマは「黙想——その価値、必要性、実践」で、新任教授、ステファン・ファン・デア・ヴァット先生に指導していただきました。森の中の施設という会場の持つ特質を活かして、実際に1つの講演は、野外で行いました。その後も、めいめいが自由に聖書を持って黙想する、という時間を持ちました。ステファン先生はその講演の中で、聖書の読み方として、情報を取り込む informational reading と、聖書によって自己が形成される formational reading の2つの読み方を紹介されました。今回、私たちが学びかつ実践したのはその後者です。神学校の日常は、学びと奉仕を並行しながら多忙な共同生活を営みます。熟練した奉仕者を育成するためです。しかし、奉仕者である前に神の御前に生きる一人の人間です。黙想はそのことを改めて深く考えさせました。

ステファン先生の奥様のカリナ夫人にも「ホームスクーリングの実践」というテーマで、講演をしていただきました。母国を離れた宣教地で、親が責任をもって子供の教育をすることの大切さ、そしてそのユニークな教育実践を紹介してくださいました。その独創的で家族愛に満ちた教育と子育てが、ご夫妻の豊かな霊性を養っていることを覚えめました。

その他、新入生の証しも聴きました。レクリエーションの時間も持ちました。いつもの学び舎を離れ、学生と教師が一緒になって、夜遅くまでふとんの上で話し、山に登ったり、スポーツで汗をかき、寝食を共にしました。2日間というのは短い時間ですが、私たちは教室の机の上では味わえない時間を共有したのです。熟練した奉仕者となること、そしてそれ以前に、人として深められることを願っているのです。



2017年神学校行事(抜粋)



1月6日(金)

第2学期開講講演 - 講師望月信先生



2月3日(金)

全校祈祷日 - 講師西堀則男先生

4月7日(金)

第68回入学式

第3学期開講講演会

講師岩崎謙先生

5月13日 / 20日 / 27日 / 6月3日

信徒神学講座「宗教改革 500年」

講師吉田隆先生、望月信先生

5月18日(木)~19日(金)

神学校リトリート



5月30日(火)

日韓宣教研究所セミナー

6月27日(火)

第65回卒業式



7月7日(金)-8日(土)

第41回夏期信徒講座



1月24日 高神大学院との交流



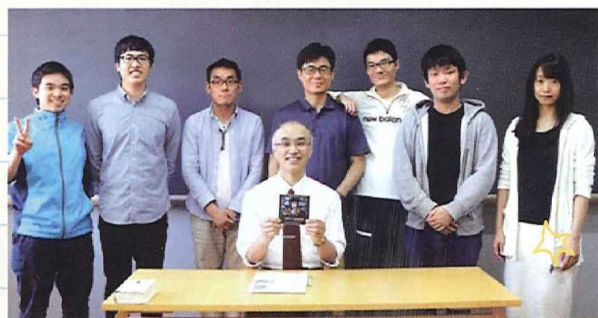
新入生歓迎会



2月13日 卓球大会



4月11日 南アフリカ訪問団



卒業生最後の授業



野外授業



「日韓宣教研究所」講演会

校長 吉田隆

本校は昨年、日本宣教における日韓両教会の相互協力を一層実りあるものにするために「日韓宣教研究所」を開設しました。今年、その第二回の講演会が、5月30日(火)に行われました。

今回の講師は、昨年に引き続き同研究所の運営委員長である申成日(シン・ソンイル)先生(日本キリスト改革派広島教会牧師)と、本校の卒業生であり研究所所員でもある姜一成(カン・イルソン)先生(日本アッセンブリーオブゴッド教団西宮アガペー教会牧師)でした。

昨年、韓国長老教会の「政治規準」から韓国の教会運営の考え方の特徴や日本の教会との違いについて興味深いお話をしてくださいました申先生は、今回は極めて個人的な経験から、日本キリスト改革派教会初の韓国人牧師となられるまでの様々な苦勞、喜び、失敗、そして差別経験から学んだことを具体的かつ正直にお話くださいました。とりわけ、差別経験では、日本のキリスト教会に依然として根強くある偏見や無意識的にしてしまう言動がどんなに相手を傷つけるものかを改めて教えられました。

姜先生もまた、日本宣教への召しから、神学校での学び、そしてゼロからの開拓伝道に従事して会員のほとんどが日本人である教会の形成に励んできた経験から、日本宣教における困難とその鍵について、得難いお話をしてくださいました。

これからの日本宣教にとって、韓国教会との協力が不可欠であることは言うまでもありません。しかし、そこには様々な課題もあります。この研究所では、あくまでも現場に即した具体的な課題に正面から向き合い、率直に話し合い、それを克服して行くことを目指しています。日韓双方の教会の特徴が生かされつつ、21世紀における新しい宣教協力の在り方を模索するものです。今後とも、この働きに関心をお寄せいただければ幸いです。





第2学期開講講演会 (今年度、4月からが1学期、9月からが2学期となりました。)

講師：小峯明先生 (本校講師、日本キリスト改革派船橋高根教会牧師)

会場：神戸改革派神学校チャペル

日時：2017年9月5日 (火) 午後1時30分～3時30分

「改革派教会の礼拝改革について」

神学校特別公開講義

講師：王艾明 (ワン・アイミン) 先生

会場：神戸改革派神学校チャペル

日時：2017年9月21日 (木) 午前8時30分～12時

「中国キリスト教の過去・現在・未来」



秋の信徒神学講座

受講料1日:800円

「説教ってなんだ？」

講師：岩崎謙先生 (神港教会牧師)

会場：園田教会

① 9月23日 (土) 午後1時30分～4時

「神の言葉としての説教」

② 9月30日 (土) 午後1時30分～4時

「人の言葉としての説教」

講師：橋谷英徳先生 (関キリスト教会牧師)

会場：神港教会

③ 10月 7日 (土) 午後1時30分～4時

「語られる言葉としての説教」

④ 10月14日 (土) 午後1時30分～4時

「聞かれる言葉としての説教」

New



1 『カルヴァンの終末論』 (教文館)

著者：吉田隆 販売価格 2,800円

2017年は宗教改革500年の記念の年ですが、本書は神学校における記念事業の一環として出版されたものです。カルヴァンの終末論を学ぶ決定版です。



2 『オランダ改革派神学を旅する』

リフォームド・パンフレット10

著者：石原知弘 販売価格 800円

世界の改革派教会にとって、オランダが重要な位置づけを持つことは広く知られていますが、オランダ改革派教会の歴史や神学を学ぶ日本語の本はほとんどありません。その中で本書はそれを知るための基本書と言えます。

神戸改革派神学校

2018年度新入生募集

4年制コースと2年制コースを設置、高い専門性と実践性を備えた神学校へ！



4年制コース

じっくり、深く、豊かに神学を研鑽する教職養成課程です。知的訓練と共に、実践面も強化しています。



2年制コース

教会に献身する信徒のためのコース！信徒説教者・伝道者など教会献身者の神学教育のために。(ギリシャ語・ヘブライ語はオプション)

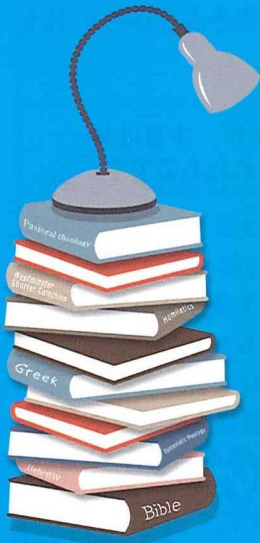


申し込み

●願書締め切り
2018年1月10日(水)

●入学試験
2018年2月13日(火)

- 特別研究科・聴講制度あり。
- まずは、お問い合わせください。



HOME PAGE

www.krts.net

「神戸改革派神学校」で検索

〒651-1306

神戸市北区菟蒲が丘3-1-3

神戸改革派神学校

TEL : 078-952-2266

FAX : 078-952-2165

E-MAIL : rcj-kobe2266@nifty.com

発行

2017年9月1日発行 / 発行所: 神戸改革派神学校 / 〒651-1306 神戸市北区菟蒲が丘3丁目1-3
TEL (078)952-2266 / FAX (078)952-2165 / 振替 01140-5-12672 / e-mail : rcj-kobe2266@nifty.com